

き谷々右大將家の御跡山がつもこゝるあるにやはたにもなさず芝まげらせはなち飼駒所へがほなりするすみいけすきひやされしながれ水さびいでかげもみえずこゝかしこ過がてにするほど暮ぬべしといへばいそぎつきたり○中暮はてぬほどにぞうちはへかまくらへくれば妙法寺住持たるなとたづさへられ迎にとてきたられしかば又ゑひをかさねて暮すぎたるほど旅宿につきたり蔭山藤太郎來りて一座の望のよし内儀申たりことに一向若年の執心もさりがたきことにて例の發句

こととはは花やまら雲代々の春

三代將軍九代の春もはなはかくこそは圓覺寺の木末さかりにみへたる會席なればなり

〔新編相模國風土記稿二建置沿革〕平相國清盛威權并ナカリシ頃ヨリ諸國莊園ノ地多クナリ○註

本州中モ多クハ武臣ノ私有トナリ莊園○註ト稱スル地居多ニシテ古昔ノ郷名ヲ廢シ或ハ私

ノ郷名ヲ唱へ或ハ莊名ヲ唱フル地多クアリ○中庄名ハ足柄上郡ニ大井庄○註同下郡ニ早河

庄○註又此二郡ニ跨ガリテ中村庄○註曾我庄○註大住郡ニ豊田庄○註糟屋庄系圖纂ニ閑院

相州在國ノ際男方糟屋庄ニ出生スト見エ其男盛方糟屋庄ト見エタリ波多野庄○註愛甲郡ニ毛利庄○註高座郡ニ澀谷庄○註

大庭庄保元物語大庭庄司景房ガ子相模國住人大場平太景義同三郎義親トハ我鎌倉郡ニ山内

庄○註吉田庄○註等アリ按ズルニ此他尙舊唱有ベキナレド今

〔吾妻鏡〕治承四年十月十六日乙未平氏大將軍小松少將惟盛朝臣率數萬騎去十三日到著于駿

河國手越驛之由依有其告也今夜至于相模國府六所宮於此處被奉寄當國早河庄於箱根權現其

御下文相副御自筆御消息差雜色鶴太郎被遣別當行實之許御書之趣存忠節之由前々知食之間

敢無疎簡之儀殊以可擬丹祈之由也御下文云

奉寄箱根權現御神領事